滿洲日報

○報價 每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增

○告白刊例 一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議

從減 每張四百文

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

一同 一袋眞綿 一改良半紙 六枚入百袋同一百三十圓 關東公司 一白味噌 一同赤 一堅パン 正五貫入 正十八貫入同 七貫入一函 矢野洋行 一小供手袋 一女シャツ 一小供シャツ上下 打同一圓五十錢より五圓迄 打同六圓八十錢より十圓位迄 打同九圓位より廿圓位迄

告示

一來る三月五日迄在留日本人の種痘を司法部裏醫務所に於て無料施行す

月 日 營口軍政署

廣告

工事材料購買入札

第一號 一杉丸太 長七間ヨリ三間半迄取合 貳千百本

第二號 一條石 延長 四千五百丈

第三號 一砂 一千立坪

右每号入札ニ付ス入札希望者ハ當署土木係ニ就キ契約書案熟覽ノ上來ル三月十五日午前十一時入札保証金各自見積代金拾分ノ一以上相添へ入札書差出スヘシ

但即時開札ス

此契約ハ營口軍政官與倉喜平擔任ス

明治三十九年二月二十六日

營口軍政署

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓

▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所

横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港 上海 天津 北京 大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室 百八番 事務室

横濱正金銀行牛莊支店

三井洋行

倉庫部

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候(電話百二十八番)

●精製白砂糖新入荷物あり

啓者 本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋綫子洋胰鐵表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屢臨爲幸

運輸部

運搬特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彤超等之華人敏活細心以資任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一八三

三井洋行經理

明治火險公司

本公司開立己久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克己秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議(電話六十八番)

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並經兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜棧房有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 總司理人 葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚週遍知之 正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十三號

元茂盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客賤售雜貨布疋一概發行裝運沙寬燒船交易南北客商歷有年矣爲此謹白

開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

代代木烟公司

本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(械利)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸君欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致悞謹此廣告

賣捌並廣告取次所

遼大市稱岐町三百三十八號 日華運輸公司

大連市盤陽城四槳九番地 岡野新聞舖

奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號

遼陽 遼倶町十 谷口今朝太郎

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尙遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口 瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

清酒東自慢、白鹿

朝日ビール

孔雀印平野水、箱根水

上等石炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部

河岸通(電話五十二番)

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候

一海關手續事務取扱 但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ

一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉島方ニテ事務取扱

一船舶貨物取扱

一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大淸通運公司 營口支店

大日本政府特定 營口付紙捲煙草 滿州一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鉄子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣

荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町

本店 下關 秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子眞價實以應各主顧局条之需圖本主人啓

●雜貨卸小賣商 附日用食料品

●菓子製造販賣商

●委托販賣商

●土木建築受負業

●瀛車積運送業

新民府孫家街

東洋號

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物產合名會社 牛莊支店

(電話六十六番)

電氣諸機械

大販賣

本店 天津日本租界電話二〇〇

支店 營口永世街甲二一五號

三友洋行電機部 (電一五四番)

主任 朱牟田寅吉

東京電報

●**駐日獨公使の參内**　東京駐紮獨乙公使歸任に付昨日參內午餐を賜ふ

●**日清銀行案提出**　進步黨は日清銀行設立建議案を提出するとに決定せり

●**林駐韓公使歸朝**　元駐韓國公使林權助氏歸朝せり

●**袁世凱と師範學堂**　直隸總督袁世凱氏の新設せんとする高等師範學堂は一千名の生徒を募集し早稻田大學卒業者を總辦とする由なり

●**湖江平穩に歸す**　清國江西湖南の支那宣教師殺害事件の加害者捕縛と共に一體に平穩に歸せり

●**伊藤統監釜山着**　伊藤統監一行二十八日釜山着鶴原總務長官木內商工局長等同地に出迎へり

●**鴨綠江軍兵站司令部凱旋**　鴨綠江軍兵站司令部は昨日廣島へ凱旋せり

●**滿洲經營委員會**　二十八日滿洲經營委員會開會す法制局參事官道家齊委員に加はる

●**捕虜交換書の調印**　今一日日露兩國捕虜交換濟の定約書に調印す

●**鐵道國有案の提出**　鐵道國有案の閣議昨二十八日夜深更に及び始めて決定し愈々當議會に提出すると爲れり

●**稅法調查會經費**　政府は稅法調查會經費五萬圓を豫算追加案として議會に提出せり

●**韓國法務院長**　韓國法務院長に大審院檢事香坂熊太郎氏選任せらるへし

●**ダニロフ中將の出發**　露國俘虜全部引渡濟みと爲れるを以て俘虜受取委員長ダニロフ中將は來る五日橫濱出帆歸國の途に就く

（以上三月一日發電）

倫敦電報

●**バルフォア氏の當選**　倫敦市の選擧區に於てバルフォア氏はバウエルス氏の四千一百三十四票に對する一万五千四百七十四票の多數を以て當選せり

●**大統領と米國の軍備**　大統領ルーズベルト氏は書を陸軍卿に贈り萬一の場合に備ふる爲め平時に於て陸軍をして最も優等なる戰鬪力を有せしむるの必要ある旨を諭示せり、而して陸軍卿は之れを一般に布告せり
大統領ルーズベルト氏は該書中に東鄕大將の成功を說き併せて米國陸海軍人に對して日露戰爭終結の際に於ける東鄕大將の諭告を引用せり

●**林大使の鹿島檢分**　日本全權大使林男はニューカッスルに赴き新造軍艦鹿島を檢分せり

●**獨國議會と膠州灣**　獨國議會に於てフオン、テルピッツ海軍大將は獨國が膠州灣を一等要塞となすへしとの傳說を否認せり然れとも日露戰爭の結果として極東の狀態を一變せしは疑ひなき所なれは獨國は或る程度に於て軍事的安全を期し海上に於ては中立を全ふし陸上に於ては清國人の騷亂を鎭壓するに足るへき兵力を備へさるへからすと言明せり

●**アルジェシラス會議の進捗**　昨日のアルジェシラス會議は多少の進捗を示し稍々有望の色あり

（以上三月一日發電）

雜報

●**英國貴賓と我海軍**　過日鎭守府に催したる齋藤海軍大臣の午餐會席上に於てコンノート親王殿下には海相が殿下の御健康を祝し奉りたるに對し御挨拶を述べさせらるゝや有栖川宮殿下御起立あらせられ日本の海軍か英國海軍に負ふ所多く今回の戰爭も誇り英國海軍指導の結果に外ならずとて同盟國海軍の爲に御祝盃を擧げさせられたるにシーモア提督は之に答へて大に日本海軍の發達を稱賛し
トラファルガーの海戰と等しく日本海の海戰に未曾有の大捷を博したる東鄕大將は恰もネルソン提督と同じ斯る名譽ある海軍と一堂に會するを得たるは余の光榮とする所なり日英兩國は地形上共に嶋國なれは國の繁榮を計るには海軍の隆盛を計らさるへからず殊に日英同盟の効力を完全ならしむるには鞏固なる海軍の力に賴らさるへからず嘗ては日本の海軍が英國に負ふ所ありしも日露戰爭の結果今後英國海軍は砲術戰術軍艦の構造等について日本海軍に學ぶ所少なからず
と述べ日本か一萬噸以上の大軍艦をも製造するに至りたるを稱揚したる長演說をなしたり又コンノート殿下には同日工廠御巡覽の際大船渠内にある相摸の外形を御覽ありて其損害の大なるに驚かせられ內部も見たしとの御意に上村長官は直に殿下を同艦內に御案內申上げ修繕中の模樣を御覽に供したりと

●**日露滿洲軍近狀**　滿洲に於ける我が野戰軍の高等司令部中軍司令部以上は悉く撤退を了り師團司令部の如きは來月中旬までには悉く大連を發し四月中には殘留員全部の撤退を了る可き豫定なるが露軍は之に反し完全に撤退を了りたるは既に四箇軍團に過ぎず此れとても其陣地が滿洲を離れたりと謂ふに止まり沿海州に大牢を留め居り半數以上の兵員は我が兵員の全部撤兵後尙は滿洲に殘留する事となる可し此れ一は天候及び歐露擾亂の障礙に由りたる可しと雖も或は目下開始せる北京談判に對する何等かの目的の爲め故らに撤兵の急施を延引しつゝあるにはあらずやと疑ふべき節あり若し今日の如き順序を以て露軍の全部撤退を行ふものとすれば早くも本年冬季に及ふ可しと云ふ

●**メリット勳章**　此程英皇より大山、山縣、東鄕三大將に授けられたるメリット勳章は今を距る四年前南阿戰爭平定紀念の際創定せれたる勳章にして現に此勳章を授られたるはロバーツ元帥、ウヲルゼレー元帥、キチェナー將軍、レーレー卿、クルヴイン卿(科學者)リスター卿、モーレー氏(今の印度事務大臣)シーモーア元帥、サー、ウイリアム、ハギンス(天文學者)ホアイト元帥、サー、リチャード、ジェッブ(國會議員にして且つ古代の歷史の敎授)フイッシャー大將、サー、ローレンスア、ルニタデマ(古代學者)ジョージ、メレヂス氏(小說家)及びホルマンハント(畫家)のみなりと云ふ

●**在露日本人の自由**　露國外務省は今般在露國米國大使館に對し露國政府は交戰中若干の日本人に往來の自由を制限したるか目下右の制限を撤去するの好機會なりと認め右等日本人か現在留置の場處を去るを許可する旨並に米國大使館に於て右日本人に對し何等訓示をなすことを欲するに於てはこれを傳達すへき旨通牒せりといふ

●**旅大の私有財產整理事務所**　我政府にては戰前滿洲に在留せる露國人及び其他の外國人の私有財產に關する整理に着手するとと爲り各其所有主にして滿洲に渡航せんとする者は陸軍大臣の許可を經て渡航し得べきとは東電の報ずる所の如くなるが今回愈々其整理委員事務所を旅順に出張所を大連に何れも設置することと爲り既に其事務を開始せりといふ

●**豆の近況**　昨年末以來所謂邊車即ち寬城子附近の出荷は二三年以來嘗て見さる程多く加ふるに奉天、遼陽、海城等の所謂地車も相應に出荷するあり一日の石數最も多き時は一千五百石に上りたるに近頃に至つては寬城子附近の道路の甚た惡くなりたる結果所謂邊車の入荷殆んと絕無に歸し其依然として入荷しつゝあるは僅に奉天以南の所謂地車に止れは昨今豆の供給は一時に比し大に減し一日の數量僅々二三百石內外のみ試に之を其最も盛なりし時代に比較すれは漸く五分の一に達するに過ぎす故に普通なれは豆は昨今甚た其價を高めさる可らさるに目下金融甘々逼迫の爲に油房等に於ても進んで買取るの勇氣なく更に一方に於ては銀貨の騰貴より爲替の不利となり日本向き輸出は從前に比較して自然高値を覺ゆるの至りたる結果廣東汕頭上海日本等の需用甚た減少せしを以て其相場は目下寧ろ日々下落の一方に在り過日來一石七兩五匁の相場を保ちたる白豆も昨日の如き七兩三匁を以て賣約の約定調ひたりと云ふ

●**豆粕の近況**　漸次解氷に接近せしを以て需用者は何れも買進みの氣持となりたるに油房は先是已に先賣りを以て持物を賣居し盡れば目下品物拂底にて從て相場も昂騰し過日來一枚十二圓五十錢の物昨今は十三圓の高値を示し尙は堅硬の氣味也

●**最近十一個年船舶入港日**　近日の暖氣により遼河の開河も遠からざるべきが今最近十一個年間に於ける營口への船舶入港期日を擧ぐれば左の如し

明治二十八年	四月四日
同　二十九年	三月廿八日
同　三十年	三月十九日
同　三十一年	四月一日
同　三十二年	三月十七日
同　三十三年	三月廿五日
同　三十四年	三月十七日
同　三十五年	三月十五日
同　三十六年	三月七日
同　三十七年	三月廿九日
同　三十八年	三月廿八日

但し昨年は三月二十日に既に船舶の出入に差閊無かりしも萬一を慮り我軍政署にて二十八日迄入港するとを禁ぜられたり三光丸の沈沒せるは十八日に入港せんとして河口に擱着せるを以て軍政署の特に注意を加へたるならんか本年は此氣候にして變化すると無くば三四日は無論早く入船し得べしといふ

●**實業協會員と過爐銀問題**　同會員中日本人側の委員七名か過日正金銀行樓上に集會し過爐銀問題に付て互に研究する所ありたるは當時の本紙に記載せし所なるか更に明日を以て三井洋行に支那人側委員八名と共に集會し先づ日本人側委員に於て其研究の結果を報告し次に同問題に對する支那人側委員の意向を聞き互に懇談熟議して成る可く圓滿なる解決を企る筈なりと云ふ

●**慈善市の殘品**　本日より日本人會に陳列し日本にて買入れたる元價を以て販賣すへき慈善市の殘品は總額千二三百圓の品物の由なるか市價に比較すれは無論甚た低廉なるに相違無けれは買入に志ある者は早く足を運ぶに非れは賣切となるならんと云ふ

●**配達夫の信用恢復**　電報の配達か頗る敏速を欠き一般の甚た迷惑を覺へつゝある事は過日の本紙に記載したる所なるか配達に忠實なる配達夫は本紙の記事に依り一人の不忠實者ある爲に斯く一体の不信用を觀るは殘念の次第也自今は仲間を以て十分に監視し以て不都合の行爲無からしめ信用を恢復せんと甚た力味つゝありと云へは、自今公衆は復た配達に付き迷惑を覺る如き事は萬之れあらさるへし因に忠實なる配達夫の陳述する所に依れは仲間に兎角忠實を欠く者あるは兼て認る所なるも配達の際に新聞を讀む等の不都合は嘗て認る所無かりし云々、兎に角く一体の配達夫か本紙の記事に依り信用を恢復せんと力むに至りたるは喜ふへく又感ずへし

東西南北

●**世界の最大戰艦**　新造戰鬪艦ドレッドノート號は此程ポーツマウス港に於て進水式を擧行せるが排水量一萬八千五百噸にして世界第一の巨艦たり速力十九節載砲十二吋十門以上の豫定にして裝甲は無類の堅固なるものにて現今の砲彈と水雷は到底これを貫通し得さるものなりといふ

●**速射砲製作着手**　大阪砲兵工廠は近日內より清國政府より注文の速射砲百門並びに附屬品の製作に着手する由なるが尙同廠にては露軍より捕獲せし速射砲を參考として新式速射砲の製造を爲すべしといふ

●**北京公使館新築**　我が北京公使館は愈々來年度に於て其一部の新築に着手することゝ爲り既に大倉組の請負に屬し目下材料の取寄中なり場所は現在公使館と駐屯兵營との裏手なる肅親王府跡を擇び正門は北清事變殉難者紀念牌の附近に設けらるべく正金銀行支店及び本願寺出張所も亦同時に新築に着手する筈なりといふ

●**紀念博覽會開設**　大阪なる戰捷紀念博覽會は愈々三月十五日より開會することに決したるを以て右に就き市參事會にては戰利艦を公衆に觀覽せしめん爲め其回航の儀を海軍省に申請すべしと

●**從軍徽章の制定**　三十七八年役從軍徽章制定に就ては其筋に於て目下愼重なる審議を凝しつゝあるが元來從軍徽章の地金形狀圖案等に關しては長き邊にても深く大御心を注がせ玉ふ趣なれば二十七八年及び卅三年兩役の際に比し當局者も一層苦心を重ねて起草したる由なるも上奏の後思召に依り更に變更する事もあらんと

●**曾根男の新俗謠**　從二位勳一等前の大藏大臣男爵曾根荒助氏は去る廿日伊藤統監の赴任を大磯停車場に見送りし際末松男爵夫妻に左の新作俗謠を示して其批評を求めしに男爵夫妻は直ちに是に節附を爲したりとなん
おい〳〵親爺さん、此ごろ薩張り見えねが、達者かへ、達者をころか聞いて呉れ、都で稼いだ其時は、朝飯たべる事なきも、田畑をはじくる其精か、麥飯菜飯五六杯、缺かしたことのあらばこそ、かてゝ加へて御茶までも、腹にたつぷり世の中を、濁でし來るこそおかしけれ

●**藝者の韓國派遣**　不日伊藤統監渡韓の上盛大に催まるへき統監府開廳式當日の會宴には我が紅裙隊をして杯盤の間に斡旋せしめ以て韓國大官連を饗應する由にて馬關の其筋に內命あり稻裏兩町より第一流の老妓を選拔して八名を派遣する都合にて其入選者は腕によりかけ支度中なり尙博多よりも同樣三名ばかりの出陣者あるべしといへり

●滿洲の側面觀

（某政治家の痛嘆）

陸相の答辨　大石正巳氏は我輩の尊敬す可き先輩なるか議會に於ける同君の質問に對する寺內陸軍大臣の答辨を觀るに、我か滿洲軍は近々中に於て全部凱旋するか如く殘留して將來鐵道線路、其他の守備に任するは僅々二個師團に過ぎさるに似たり

●**公約の實行**　公約の實行に於て斯の如き失れ或は餘儀なからん、然れとも顧て今ま、滿洲の實際に徵し我戰後の經營に考ふれは余輩は實に痛嘆を覺へさるを得ざる也

●**鐵道の敷設**　試に之を警察事故に觀察するに其事も多數なるは鐵道敷設等の後に在りとす蓋し其地　何れを問はず一朝鐵道の敷設等之れあらんか附近無職の徒は一体に其地方を指して集合する者とす幸にして工事中は無賴の徒と雖も相應の收入あるを以て未た社會を害するに至らさるも工事終了して收入の道、杜絕せんか彼等は元の無賴漢也、無職の徒也、其の附近の安寧か彼等に依つて擾亂せらるは寧ろ當然と謂ふて可也

●**戰爭の結果**　鐵道工事に於て其後の物騷なる尙且つ斯の如し況んや日露の戰爭後に於てをや又況んや無政府と云ふも過言にあらさる滿洲に於てをや更に況んや馬賊の巢窟たる三省の廣原に於てをや其將來や蓋し想像す可きのみ（未完）

投書かご

▲永世街のチャンコロ持主にして餞取り番人は日本人なる鳥の名のつく日本湯はチャンコロ根情なるが二日乃至三日間湯を代へずに其臭氣の甚しきと丸で糞壺に均しく衛生を重ずる日本人は入るべからず（衛生家）▲東清鐵道輸送業者が二万圓の保証金を差入れ始めて營業の許可を得たるにも係らず近來大石橋、蓋平、瓦房店等は驛員連中が一臺に二三十圓程宛つ儲けて居ると云ふ話がある事實ですか大に探偵して見給へ（小松田門太）▲馬賊の表札が近頃見へないようですが流石鐵面皮な阿魔も閉口垂れて居るのでしようか（愉快生）▲近頃質屋のモグリが澤山出來て居るやうだが餘り殘酷な事をすると新聞社へ名前を通知して筆誅を加へて貰らうぞ（裏家住居）▲第三樓の喜太八は半玉上りの癖に何せ能く饒舌るのであらう餘りベロ〳〵饒舌ると姐さん達に憎くまれますよ（注告生）

●**藝者と酌婦のお灸**（〆て十五疋）　去月廿八日及び本月一日兩日の健康診斷日に於て無屆の儘例規の檢梅をなさゞる豪尻、吾妻の米子事池田ヨチ、万なをし駒介事、河村おチヨ、祇園閣小宇の事川崎ヨシ、萬月福助事宮崎マツ、の五毛猫及び酌婦に於て入船亭玉置タマ、東亞館末常タマ、春日屋藏本梅の、仝片山スカ、二葉亭柴田クス長崎屋海部チノ、仝濱松ハナ、春帆樓平村ヨカ、仝高山ハマ、萬月伊藤ヤヱ、仝芳野ワヨ等合計十五疋の連中昨日軍政署に召喚の上嚴しく訊問せられたる所例の鼻下長先生等をプロマイト式に引延ばず如き口調を以て旨くお役人を胡魔化さんと詭辯を弄したるも、さう甘くは問屋に卸されず終に失れ〳〵太皷のやうなお灸の懸命に接したりとお目出度し〳〵

●**小僧の手帖**　山陽の日本外史は今年の一月板權が切れた併しもう飜刻する者も居るまい

大連車
▲上行車時刻表
車站名　開車時分　到著時分
新民屯　奉天　撫順　營口　上午六、〇〇　上午八、二〇　上午九、五七　下午
▲下行車時刻表
車站名　開車時分　到著時分

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表
大連奉天間　下り列車
驛名　發着時刻
遼陽　著午後三、五〇　發四、五五
大石橋　著一〇、三二　發一一、三五
大連　上り列車
旅順　發午後一二、〇三
大連　著五、三二

天
營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時

小說

新作小說 おとし胤 (三)

德田秋聲

少女は、これには心の底から驚いた。それでそ眞箇に仰天して了ツた。只呆れて、巨漢の顏を見上げてゐると、

「いや、其樣なに驚くことは無い………」と巨漢は、淋しい笑顏をして、「然うでせう、貴方は猿島の光さんでせう。お祖父さんは寬齋さんと有仰る方で、阿母さんは………」と謂ひかゝツて、何うしたのか言惱むでゐて、さて早口に、「織江………ね、織江さんと有仰ツた方でせう。今ぢや此の下に、靜に眠つてゐらツしやるけれども………」

と巨漢に似合はず、言が叮嚀でそして溫順である。

それで少女光は、直に驚が止むだ、怖も無くなツて了つた。彼女には、人を疑ふやうな智慧が無い。否、人を疑ふやうな心が微塵も無いのである、まるで水晶のやうな心である。

「然うですの、私は光でございます。」

「然うでせう、然うでせう。確に然うだらうと思ひましたが、万一と間違ツてはと思つて、それで念の爲にお訊ねしたのです。」

と巨漢は、さも滿足したやうに、さも悦しさうに謂ツて、「何しろまア、大層大きくお成ンなさいました、此の下の阿母さんが何樣なに悦んでゐらツしやるか………」

光は、もうすツかり心が打解けて了つて、まるで懇意な人にでも逢つたやうな積。

「ぢや、貴方は、私の阿母さんを御存知の。」

「知ツてゐますとも、能く知ツてゐます。貴方がお生れにならない以前から!。」

母御を知ツてゐると聞いて、光は何んだか其の巨漢が懷慕しくなつて來た。

「それでは、阿母さんと御懇意だツたんですか。」

「然うです、まア然うです。」

「お祖父さんも………。」

「存じて居ります。時に、お祖父さんはお達者ですか。」

「達者よ、そりや丈夫なんですの。」

「お幾歲にお成ンなさいましたツけな。」

「私?………お祖父さん。お祖父さんは七十三よ。」

「それで何んですか、お氣も確で。」

「確ですとも!世間では、變人だの、一酷だの、頑固だのと有仰るさうですけれども、私、然うとも思はなくツてよ。」

「然うですか、先生は昔から其樣なことを謂はれてゐらツしやるんですよ。」

「ですけども、中々のんきよ、だツて、今でも私と兩人で、夜遲くなるまで、昔噺の爲ツくらをしてゐることがあるんですもの。」

「然うですか、それでお家の方は………御家族は幾人ゐらツしやるんです。」

「家族ツて誰もゐないわ、私とお祖父さんと兩人きりよ。」

「兩人きり?………召使もゐないんですか。」

「居ませんの。」

「それでは淋しいでせう。」

「そりや偶時には淋しいと思ふこともあつてよ。」と謂ツて、光は、ふと思出したやうに、「一體貴方は誰方?………」

「私ですか。」

と巨漢は、迷惑さうに謂惱むだ。

光は、巨漢の返事が遲いので、始めてつくづく其の樣子を瞶ツた。

「何んといふ妙な風躰だらう。」

と光は考へた。先づ丈の長い羽織を着て脚絆に甲掛、鞋掛けで全て旅支度、大きな洋傘を一本突き立てゝ、茶の山高帽子を阿彌陀に被つてゐた。年の頃四十五六、鼻高く、眼大きく、頰鬚濃に、眉毛大く、體肥え、長高く、見るから立派な偉丈夫である。雖然顏の半を隱さんばかりに掛けた黑の大きな眼鏡は、何んとなく他に薄氣味の惡い感を與へる。

「一體貴方は誰方?………」

と光は催促するやうに謂ツた。

「私ですか………」と巨漢は空恍けるやうに微笑して、「さ、誰でせう。何れお解りになる機があらうと思ひますが、今はお名告申すことが出來ません。併し私は怪しい者では無いのです、お疑なさることはありません。私は、貴方の阿母さんに成り代つて、貴方の身を護らなければならぬ義務があるのですから、何うか此の事を信じて戴きたいのでございますが………宜しいですか。私のいふことがお解りになりますか。」

「解つてよ、能く解つてよ。阿母さんに成り代つて、私の身を護つて下さるのは、まるで阿父さんのやうな方です。」

「阿父さん………阿父さんと………」巨漢は、幾度か、口の中で謂ツて、「然うです、貴方が、眞箇に然う思つて下さると、私は實に悦しい………此樣なに悦しいことはありません、此樣な滿足なことはありません。」と熱誠面に溢れて、一言々々に謂はれぬ力が籠つてゐた、併し私は、或仔細があつて、貴方のお祖父さんにお逢ひ申すことが出來ないのでございます。」

●でたらめ草 △△△　日本では今でも賣廢娼論の氣餤が尚滅滅せないのみか滿洲あたりへ醜業婦の出稼するのを國家の體面とか品位とか言つて密に頭痛に持つて居る神經家も少くない傍らにエム、エス、ホ・セン氏の如き日本の遊廓制度を頻りと讚賞して居るのは可笑しい現象である▲併し外國人で日本の遊廓制度を讚賞して居る者は獨りホーセン氏のみで無い獨逸人のノド、ベツクル氏の如きも『不夜の都』といふ書物を著はして芳原の沿革制度、衞生、道德等に關して頗る詳細の調査を爲して居る▲氏の意見に據ると歐米で賣春婦を公にせぬのを道德のやうに心得て居るのは大なる誤りで三百年來存在せる芳原の制度は即ち日本の歐米より一層優れた文明を有するとが出來るのであるといふのである、チツト冷や汗の出る位のお世辞だが外人の『戰勝の日本觀』は其一例が鳥渡斯ういふものぢや(△△坊)

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

元茂盛	銀十元
姜茂蔭	同十元
孫敬甫	同三元
孫鑑堂	同二元
西義順	同十元
王耀三	同十元
李恒春	同三元
葛毓芹	同二元
興順廻	同十元
姚明仁	同十元
張豫登	同三元
東盛和	同十元
葉亮卿	同十元
張毗善	同三元
裕盛長	同十元
范宜之	同十元
孫鍾恒	同二元
張魯青	同二元
同興宏	同十元
韓介眉	同八元
林聯東	同二元
周者皐	同二元
仁裕嶽	同十元
高吉先	同十元
楊臨樑	同三元
李光謙	同二元
義泰鶴	同十元
沈華庭	同十元
裕劉祥	同十元
張訓庭	同六元
楊滄遠	同四元
李厚田	同二元
長隆泰	同十元
寗義田	同六元
徐鯤堂	同六元
厚劉合	同十元
關景三	同五圓
李瑞珊	同四圓
杜成林	同三圓
天合建	同十圓
秦孝新	同五圓
張子周	同三圓
李綸五	同二圓
林肇勳	同二圓
永何慶	同十圓
周逵賓	同五圓
曾蔭先	同二圓
梁維基	同二圓
宗麟德	同一圓
張子明	同二圓
東永茂	同二十圓
潘玉田	同十圓
金伯芳	同四圓
公謙商會	同十圓
義順厚	同十圓
張祿泉	同二圓
侯榮齋	同二圓
于蘿年	同二圓
同聚源	同十圓
王鴻猷	同五圓
太古源	同三十圓
太古盛	同十圓
陳雁初	同十圓
志叢台	同十圓
施雨亭	同五圓
益泰隆	同十元
寗任堂	同三圓
葛聲遠	同二圓
信昌恒	同十圓
呉聲遠	同四圓
宋錦霑	同三圓
恒義利	同十圓
于元春	同四圓
杜恩樂	同三圓
鴻麻利	同十圓
李輿基	同二圓
馬禮庭	同三元
逢紫宇	同二元
林肇宇	同三元
張桐岡	同二元
寗馨遠	同四元
李印堂	同三元
遅克匕	同四元
葉侶琴	同三元
李敬亭	同二元
葛監周	同二元
王紹蓮	同二元
王省三	同四元
劉子謙	同二元
阮景星	同二元
婁隆心	同三元
司彥勳	同二元
呂經武	同十元
鄭襄如	同六元
楊錫九	同二元
張允昇	同六元
許颺翔	同二元
苑錦堂	同五元
柳選一	同三元
單雅園	同四元
雷文彬	同二元
劉福先	同二元
王曜堂	同四圓
夏蔭樵	同二圓
傅茂松	同一圓
李元良	同一圓
金德魁	同六圓
李中賢	同二圓
趙常華	同二圓
劉成齡	同五圓
陳鴻恩	同五圓
程理廷	同五圓
成省三	同三圓
楊杏舫	同二圓
韓貴堂	同三圓
葛毓竹	同三圓
楊隆昌	同二圓
龔玉田	同二圓
王世榮	同二圓
鴻盛玉	同十圓
王書堂	同二圓
曲金銓	同二圓
曲敷輝	同二圓
同茂昌	同十圓
郭棣華	同二圓
李筱溪	同二圓
王長忱	同二圓
會通錦	同十二圓
鄭文齋	同二圓
范翰亭	同一圓
楊淑之	同一圓
鄭乃思	同一圓
東和泰	同十圓
劉紹先	同四圓
寗培生	同二圓
天合瀛	同十圓
成廉卿	同二圓
黃茂齋	同二圓
劉世昌	同二圓
義盛德	同十圓
宋子亭	同四圓
李純熙	同二圓
協成謙	同二十圓
大德玉	同二十圓
永惠興	同十圓
孫煥章	同二圓
謝裕昆	同二圓
包亦經	同二圓
同聚興	同二十圓
東生長	同十圓
周麓坡	同五圓
劉本榮	同一圓
薛凌閣	同一圓
晉太豐	同八圓
蕭蓬山	同四圓
梁永昇	同二圓
王作霖	同二圓
大盛亭	同十圓
朱集桐	同四圓
王明信	同一圓
司宗銘	同一圓

計八百八十五圓

累計三千九百三十一圓九十五錢

建築請負廣告

弊組儀昨年中官民の建築工事に從事致居候處本年より專管居留地へ各事業家之建築多大なるものと推測し就ては本年より一層事業を擴張し各位の希望に應じ正實と叮嚀を主とし勉強可仕尚構造法等は多額を要せずして強固なる建築法を研究在候間建築御希望の御方は御通知次第參堂御相談可申御注文之程偏に奉願候

建築設計依賴に應ず

營口永世街二本町二百五十八號

工棟組

嚢に當委員部に於て開催せし慈善賣店殘品を來る三日より三日間牛莊日本人會事務所に陳列し元價を以て販賣す

但し販賣時間は午前十時より午後五時迄とす

右廣告す

愛國婦人會牛 委員部

啓者本會前在日本運來各種精製品物已於上月二十日在監督署前發賣以其餘利送交本國發給軍人但是日猶有未售完此茲定於西曆本月初三日在日本人會内發賣餘品俱按照原價格外公道且貨物十分優美爲有賜顧者請速臨勿悞

愛國婦人會啓

競賣廣告

第一號　二輪荷馬車　千三百輛

第二號　二輪荷馬車輓具　五百副

第三號　一人挽徒步車　三千輛

此入札保證金は各自見積代金百分の五以上

右競賣に附し買却す入札望の者は當所倉庫に就き(自午前十時至午後四時)間現品及入札心得書並に契約書等熟覽の上來る三月二十日(自午前十時至正午)入札書差出すべし但即時開札す

此契約は門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎擔任す

明治三十九年二月二十日

奉天停車場南方約八百米突に在る(山西會館附近)

門司野戰兵器本廠奉天出張所

拍賣告白

門司野戰兵器本廠奉天出張所茲於日曆本年二月二十日在奉天倉庫拍賣車輛願欲包攬者每日自上午十點鐘起至下午四點鐘止須到該處詳看車輛拍賣知及合同樣式限於三月二十日自上午十點鐘起至晌午須呈入札書即行開札再立此合同者爲門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎

計開

第一號　双輪搬貨馬車　千三百輛

第二號　双輪搬貨馬車用車套　五百副

第三號　人力單拉車　三千輛

承買者均須將各自估價一百分之五先交作押

明治三十九年二月二十日

在奉天停車場東南方清里一里半(山西會館附近)

門司野戰兵器本廠奉天出張所

奉天日本旅館

潘陽館

家屋宏壯清潔

接待優遇懇切

開放全時一開業

奉天小西門外大街路北

M. Iizuka,

Contractor,

Arc hitect and Civil Eginneer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao

Ying Kow

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

本店　營口　彌生　電話四一番

支店　鐵嶺西門外大街　彌生

館主宮下只七郎

一位置　西門より西の方五六軒北側に候

一構造　室内裝飾等日本式　特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣ることなし

一待遇　は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

右今般新着荷仕候間至急御申込願上候

消火器

英治洋行

營口[illegible]北街

西洋料理仕出し御需應にず

即席和洋料理　東京樓支店(電話四十四番)

店主　熊田兼次郎(電話百七十八番)

旅館　東京樓

營口中央市場前

[illegible]乘車乘船好位置

高等旅館　彌生館

營口永世街

館主　宮下只七郎

(電四二)

矢野洋行
Yano & Co.
電話一三七　Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

雜貨卸商

在元神廟營口街
關東公司雜貨部

石材、碎石
並に自家製造
瓦、煉瓦
廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

菓子用藥品新荷着

重曹
硼砂
炭酸安母
ヲーラミン其他

醫藥賣藥醫療器械

營口永世街
東瀛大藥房

澤龜は醇良にして風味高尚なり

壹より
札幌ビール
朝日ビール
政府專賣口付紙卷煙 朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 鑵詰 色々
洋酒類 取次販賣

釀造發賣元
宅合名會社
本店 大阪府堺市九間町
小樽支店 北海道小樽湊町
臺北支店 臺灣臺北街書院
基隆支店 臺灣基隆街石牌
臺南支店 臺灣臺南街下南河
函館出張店 北海道函館區辨天町
遼陽出張店 清國遼陽城内西街
大連出張店 清國大連監部
營口支店 清國牛莊港東營口

工
營口元神廟前
飯塚工程局材料部
(電話百三十五番)

弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

雜貨
醬油
すし米
水炭
清酒 大樽 半樽

營口西北街
阪神組

ゼム
財茉口中香藥

財茉者芳香馥郁而美味可愛靈約也

ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑

大日本東京
山崎愛國堂
大藥房處修

大清國發賣處
淺野大藥房
營口永世街(二本町)
各國有名靈藥總發賣處

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般

營口綏定門街東 プツシ商會
川喜鐵工場

旅館讓渡
新築 客室十五間
雜貨部擴張に付旅館料理の全部營業其儘讓渡し度御企望者は御來談を請ふ
奉天小西邊門外拾間房
浮世館

西洋御料理
一並食 御一人前 一圓
一上等 御一人前 一圓五十錢
一特等 御一人前 二圓

此外御注文に應じ一皿三十錢以上とし仕出の御注文にも速時御間に合ひ可申候

拙亭儀元東營口川岸に於て營口亭事巴屋と稱し營業罷在候處顧客の御勸めに從ひ左の所へ移轉名を改め一層の注意を加へ營業仕候間倍舊御引立の程偏に奉希候敬白

營口水霞街第五十二號(鶴の湯東面通)
牛莊亭
(電話一四六番)

SPECIAL LIGHT
(PILSNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣 關東公司雜貨部

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

京北
扶桑旅館
客室清潔料理鮮新
東單牌樓大街路西

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理
(電話四十一番)

老妓來了
營口菊水
雛妓來了
(電話一二九番)

時刻

山海關至天津 上五、〇〇 下五、五五
唐山至天津 上六、一二 上一一、二八
塘沽至北京 上六、〇〇 下一二、〇六
天津至北京 上一二、〇〇 下五、二〇
山海關至北京 上八、 下六、四五

天津至唐山 上一、四二 下五、一七
天津至山海關 上六、二五 下六、二一
唐山至山海關 上六、〇〇 上一一、五八
山海關至營口 上七、〇五 下四、五五
溝帮子至新民屯 上三、〇〇 下六、五七

大石橋營口間[illegible]列車 大石橋發午前一二、三七 營口著一二、五〇
上り列車 營口發午後六、二三 大石橋著一二、〇六 發七、二〇
天[illegible]若午前一一、〇〇

大連旅順間[illegible]列車發着時刻
驛名 大連 發午前七、三〇
旅順 着 一〇、四九

營口大石橋 上り列車 營口發午後十〇、二五 大石橋著翌前一二、二〇

豫報
昨日の氣溫 最高溫度三十度二 最低溫度十二度二
昨年との比 低七度九 高低六度八

宮門抄

初五日 禮部 太常寺 正紅旗值日 吏部引 見 七十七名 增崇假滿請安

召見軍機 蔭廉 惲毓鼎遞封奏一件

奏議

商部奏紳商籌辦新甯鐵路擬准先行立案摺

奏爲紳商籌辦新甯鐵路擬准先行立案恭摺仰祈 聖鑒事竊臣部於上年秋冬間迭據署右丞王清穆函稱據廣東新甯縣紳商墟運使職銜陳宜禧廣西試用州同余灼稟稱職等籍隸新甯擬立公司籌辦本邑鐵路自新昌起經邑城冲蔞斗山至之夾海地方止計華里九十餘里上年六月間邀集邑紳提倡籌辦當經刊布招股估工各單啓由宜禧前往美屬金山各埠勸集華股演說利益各商擁爲踴躍計集成的款一百五十餘萬兩本年八月回華先匯一百萬元分存香港匯豐楂打兩銀行餘欵備訂購機件陸續應用而香港新加坡各埠華商以及新甯本邑紳商入股者亦復不少統計所集華股約在二百萬圓以外現設公司名曰新甯鐵路公司擬俟此路工程竣事核計餘欵續招新股再議接展以廣公益爰於十月間邀集地方官紳公同酌議悉照金山各埠附股華商來函公推職宜禧爲總理職灼爲副總理備具章程圖說稟請寄部核定奏請立案並請電咨兩廣總督飭屬切實保護勸導以便迅速開辦所有購運機件物料仍一律照章完稅其餘未盡各事宜容再隨時續稟各等語清穆前以考察商務行抵廣東接見該職商陳宜禧悉其人甚樸誠家道殷實在美國金山各埠承辦鐵路工程先後四十餘年於築路情形較有把握默念路權所至爲國家富强之樞即爲地方根本之計該職商兩年以來奔走勸勧招集各埠本邑華商股欵二百餘萬元忠愛之忱溢於言表現既來滬具稟懇請奏明立案以便尅日開辦等因臣等正在覈辦間又接准出使美國大臣梁誠電稱陳宜禧籌辦新甯鐵路苦心經營募集鉅欵確有把握應請責成專辦等語是該職商陳宜禧之誠信遠孚資本的實核與臣部署右丞王清穆函稱各節相符當經臣等與兩廣督臣岑春煊函電相商旋准該督臣電稱此路由華商自辦以本邑之資財辦本邑之鐵路自屬可行惟一切辦法是否與定章相符候覈辦續准電稱細章係援潮汕辦法內有應商數條請部覈定各等語 臣等伏查該職商陳宜禧請辦新甯鐵路自行修築洵足創開風氣保全利權於路政商務兩有裨益合無仰懇 天恩俯准立案以重路務恭候 命下當經臣等將原訂章程詳加覈定飭令迅速勸辦一面咨行兩廣督臣飭於路綫所經之處由該管地方官切實保護並出示勸導鄉民俾無攙阻庶幾易於施工俟全路工竣應請照章奏請 獎勵以資觀感至所稱事竣核計餘欵續招新股再議接展一節應屆時再由臣部查看情形奏明辦理所有籌辦新甯鐵路擬請先行立案緣由謹恭摺具陳伏乞

皇太后 皇上聖鑒訓示謹 奏奉 旨依議欽此

東京電報

●**伊藤總監到釜山** 韓國統監伊藤侯日昨到釜山鶴原總務長官木内商工局長統監府員等出迎

●**俄國受俘委員回國** 俄國俘虜之在日本者已一律送還因之該國受俘委員達膩羅中將於西本月五日陛辭出東京由橫濱啓行回國云

●**袁督興高等師範學堂** 此次直督袁宮保欲設立高等師範學堂已決議募集學生一千名即以日本早稻田大學畢業生爲其總辦云

●**江西湖南教案完結** 日前在廣西湖南殺害教士一事聞刻已拿捕兇犯一律平定云（西三月一日發）

倫敦電報

●**德國修亞東軍備宗旨** 德國海軍大將富翁帖魯比次君於該國議會陳述云德國固無以膠州灣爲一等要塞之意然日俄戰爭以來亞東之情形一變不復如舊即德國亦於紀東修其軍備海足以保持其中立權陸足以防制中國變亂則亦出於不得已云云（西三月初一日發）

中外要聞

●**兩宮不滿意於東撫** 兩宮召見軍機大臣諭問山東巡撫辦理交涉恒招物議汝等亦有聞否軍機大臣奏對云楊撫辦理交涉尚與德人相洽並未聞有別項劣蹟但聲名平常耳 太后聞奏甚爲不悅當日軍機大臣電楊蓮帥云貴撫辦理交涉尚稱和平惟吏治速宜整頓務請持躬自修益加警慎以副 聖主改良政治之意云云

●**吉省交涉** 昨俄北館可靠消息由哈爾濱回京學生四人言吉林將軍與俄交涉無論中國理之曲直須請俄領事官到署相商該館紳甫擬定本月中旬多派學生前往以便在吉省傳教云

●**唐侍郎回京** 聞外部消息唐侍郎回京次日即至外部與各堂憲會商袁宮保意見先査明蒙人私售與俄國地基處所再照詢俄使先開蒙地議約並請商部會定庫倫開放章程定妥後再與袁宮保電商等語昨外部値日唐與慶邸亦商此事

●**設裁判處之計畫** 聞巡警部堂憲議及擬於工巡局添設裁判處專理重大疑難案件及詞訟之多糾葛者査核近日譯本參酌以日本爲詳備應先略師其意陸續再加改良俟議定後當可實行矣

●**陳州會匪情形** 由開封來人云陳筱帥接外部電飭剿辦陳州會匪切實保護教堂與車站洋員當即派兵往剿惟該處匪徒聚散無常及官兵一至該匪亦無隻影近該匪又有蔓延於商水淮甯一帶之信蓋即哥老會支流聞其目的並非仇洋亦無揭竿之志不過與教民稍有積嫌耳又據訪函云豫撫陳筱帥接奉外部電命即派兵前往陳州周家口保護教堂一面勦辦匪徒刻已地面全致平靖幸未擾累教堂云

●**中俄停議原由** 唐少川侍郎自津回京已經數日而中俄議約杳無所聞茲聞俄使璞科第君於日前傷風喉痛照會外部請停議數日現雖略告痊乃藉端迄未肯開議故意遷延以至今日未知何日再行開議也

●**實業學堂覆試** 京師宣武門外直隸會館畿輔實業學堂前於正月二十七日考取正等備等名次聞各學生于日昨一律覆考諭飭每京官出結保學生一名該學堂擬題先修其身令各生作文一篇兩刻時交卷定於初十日榜示十一日入學擬定本月十五日各學生恭拜 先聖孔子之師

●**愼重銀庫** 聞各部院堂官會議衙署內遇有銀庫者每散値後八鐘閉門上鎖凡在署應役及閑雜人等不准出入飭富月官嚴行稽查收掌鎖鑰近聞有某人勾串官役探詢公事夤夜喊門任意作踐實屬不成事体自示之後如有前項等情交刑部懲辦云云

●**筆政擬由學堂保送** 昨聞各部院堂憲議擬筆政員缺向由八旗咨送到部學習當差乃近來年久仍不練達公事當此需才之際加給津貼豈能援照例案所有筆政之缺應由學堂保送庶可兩有裨益矣

●**徵收改章** 聞戶部議准徵收錢粮應令各布政使司飭各州縣官査明的戶實徵數目及親自詳查欠戶次第摘催更刻四聯串票一送該府一存串根一給花戶一於完粮櫃旁別設一櫃令花戶完銀之時自投櫃中每夜令州縣官取出付流水簿勾銷欠册云又戶部覆准嗣後州縣徵收粮米之時豫將各里各甲花戶額數的名塡定聯三版串一給納之執照一發經承銷册一存州縣核對按戶徵收對册完納即行截給歸農未經截給者即係欠戶遇有粮無票有票無粮等情即係胥吏侵蝕立即監禁嚴追應令各直省督撫轉飭所屬有漕州縣一例遵行云云

雜報

●**萬國演說會第三次會期** 頃接會正魏雅各君函云本月初十日開第三次會期即約同人於是日午後齊集火神廟演說

●**救災恤鄰** 日本東北三縣荒災凡在留本埠之日人靡不解囊相助其所捐鉅款已誌前報頃本埠中國各鉅商亦捐助多金送本社代交日本救恤會其救災恤鄰樂善好施之盛意於此可見一斑

●**乘車失物** 昨午後有一海城之客乘坐大車至東營圍子門裡將錢搭失去內計水煙袋一只賬包一個托人尋覓竟無蹤影云

●**揭示私鑄諸犯** 年前阜有門橫街高姓者富聚私鑄小錢諸犯尋被第四派遣所拏獲捉送衙署一一研鞫俱供承認昨聞警務課署已揭示諸犯罪條蓋先有不識鄉籍執業之趙清雲高永者於去秋八月間在天津萍跡會遇議計來本埠私鑄小錢漁利後至本埠重盛街魁發塘寄旅更遇同寓天津趙家庄之犯人劉玉喜何家庄之犯人吳連起不知鄉籍之犯人馮得吉該三犯皆諳於私鑄又有同寓裏省甯河縣高家庄之張振芳不知鄉籍之趙二等而趙高二犯偶爲私鑄之謀當僱劉等三人每日工錢壹元張等供奔瑣事每日工錢三角遂賃安阜有門橫街四十二號門牌高玉之房高玉知情希賄甘願出賃房於趙高二犯聚內私鑄於客臘十六日起爐十八日事敗被捉共鑄壹萬零五十餘枚當將鑄具一切幷諸犯俱拘送衙署昨經警務課將諸犯罪條揭示署外俾衆週知云云 計開

首犯趙清雲高永二名每徒四年笞三百 從犯劉玉喜吳連起馮得吉三名每徒三年笞二百 從犯趙二張振芳等每徒二年笞二百 房主高玉知情希賄出租房於該等徒一年笞一百

NEWCHWANG, SATURDAY, MARCH 3, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE. (PART II.)

II. and III. demand of Russia the fulfilment of her solemn promise with Japan to mutually complete Manchurian evacuation at the farthest within 18 months from Oct. 16th. 1905, the date of return of peace. China, as the interested party, seeks from Russia a formal confirmation in this engagement, which, being a mere matter of form, can entail no fresh loss to Russia.

Supposing the latter overture meet a refusal from lack of friendly spirit on Russia's part or either to suit her own convenience better, she could not exceed the time limit definitely set without breaking the convention with Japan, once again placing herself under the ban of bad faith.

The above diagnosis applies also to the withdrawal clause at the end of V. and also of VI.

The 100 mou of land mentioned in V. and the rich mines specified in VI. (and the claim of felling timber in forests in Kirin Province, although no reference is made in those articles above quoted) have been all arbitrarily appropriated by Russia, none of them with the consent of the Peking Government. Truly enough, some of them have been given up by the local authorities under pressure of threats or the drug of bribery. However, any secret stipulations entered into in connection with those concessions are absolutely void without the sanction of the sovereign authority of China, who for this reason reserves the perfect right to refuse a recognition for them. Her demand for their cancellation and also for the restoration of everything that have been seized by brute force and are therefore the robber's loots, is only just and should be insisted upon till it is in full complied with.

On Aug. 14th. 1905, at the Peace Conference, the Japanese Plenipotentiary Baron Komura pointed out in the course of discussion that *such engagements concluded between the Tartar Generals and the Russian authorities as had conceded to the latter the right of exploiting mines in Kirin Province and such like, had secured to them exclusive privileges or monopoly against the principle of equal opportunities professed through M. De Witte.*

In reply to this contention, the Chief Plenipotentiary of Russia explicitly disclaimed all knowledge of the existence of any such engagements, declaring that, *if such had really existed, they had been contracted by the Russian authorities concerned without the Czar's approval, and so would be positively revoked, as ought to be.* He further affirmed, as the Czar's representative, the absence in Manchuria of Russian privileges or monopoly, accepting Baron Komura's proposal to append the following clause to Art. II. of the Peace Treaty:

"The Russian Government declares that it possesses in Manchuria no territorial advantages or no preferential or exclusive concessions that trespass upon China's suzerainty or are incompatible with the principle of equal opportunities."

The one point that H.E. Tong Shao Yi, China's Plenipotentiary in the pending negotiations, has to contend in this particular issue, is that the Russian appropriation of the 100 mou of land noticed in V. and the working of the mines included in VI——all being the properties of the State——constitute for Russia "territorial advantages and preferential and exclusive concessions that trespass on China's sovereignty and are also incompatible with the principle of equal opportunities." Can there be any point so easy as this to argue to the satisfaction of every rational mind? Why, it is so simple and plain on the very surface that there is no room left at all for argument. If the arbitrary grabbing of China's own land is not a flagrant trespass on her sovereignty, what else is? "The principle of equal opportunities" entered upon Art. II. of the Peace Treaty certainly cannot mean that of slicing up her land to pieces equally among the gangs of brigands of all nationalities. Matters become aggravating worse when it comes to the forcible seizure and robbery of her rich natural vaults of gold and other buried treasure.

Once this contention has been established, it necessarily follows that all engagements leading to those appropriations by the Russian authorities have not been sanctioned by the Czar himself either, and, according to M. De Witte's open declaration, will be positively revoked by Russia as ought to be, merely for the asking.

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主 粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主 村上東四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三軒

料理　沖の島　永世街百六十五號　店主 中川粥三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二

旅館　大和館　永世街十一號　店主 前田九一郎

料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主 直塚勝一

料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主 田島彌助

料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田屋跡　店主 和田常松

東京　生蕎麥一式　東庵　元神廟（電話百五十九）

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉

料理　喜樂亭　營口元神廟街

爲替相場（三月二日）

日本向　一百圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向　七十一兩（同）
天津向　一百〇二圓二十五錢（百弗に付）
芝罘向　天津向ト仝
由正金銀行調（午後二時初八日）

日本品最近物價表　石原商店

一箱ボイル　三十入　銀八圓
一フキ同　同　同五圓五十錢
一福神漬　四打入　同三圓
一上白米　石　同廿二圓八十錢
一中　同　同二十二圓
一美濃紙　同　同六圓八十錢
一大手帳　一打　同一圓
一スコッチ靴足袋　一打　同四圓五十錢
一洗濯石鹼　二十本入一函　同三圓
一同並　二十五本入一函　同一圓八十錢
一羊羹　同一圓五十錢
一毛シャツ上下　打　銀二十五圓より六十圓迄
一白メリヤス上下　打　同八圓より十三圓迄
一首輪　打　同二圓
一毛糸首巻　打　仝三圓五十錢より九圓位迄

遼陽旅館料理屋案内

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科　營口元神廟街
さるそば 第二更科　永世街鶴の湯角

御料理　柳亭　叮嚀専一　豊濟門街二三　店主 玉岡登人

御料理　一力　並ニ溫泉　營口永世街　店主 堀万助

和洋料理　松月亭　本店 營口元神廟街一四三号　支店 遼陽西街西門一一七号

和洋料理御旅館　滿洲ホテル

旅館料理業　營口ホテル支店　主任 井上源吉

御料理會席　菊水館　主任 朝枝園捷

旅館西洋料理　遼陽館　主任 永瀬宇吉

旅館料理業　公陽館　主任 宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任 山根初之函

御料理色々應御注文　凱旋亭　主任 古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎

御料理會席　玉家　主任 西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任 石田清

撫順炭大販賣　多少に不拘御用命被仰付願上候　金城館販賣部

特別室落成　營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居新來　金城館料理部

奉天小西門外　會席御料理　高等御旅館　金城館

旅館　富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余　南大街
樓主敬白

上海　御旅館　豊陽館（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乘船取扱
館主 米田藤吉

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

支料理　滿月　平の町（電話三）
滿月支店　平の町（元都樓跡）
店主 青木勝直

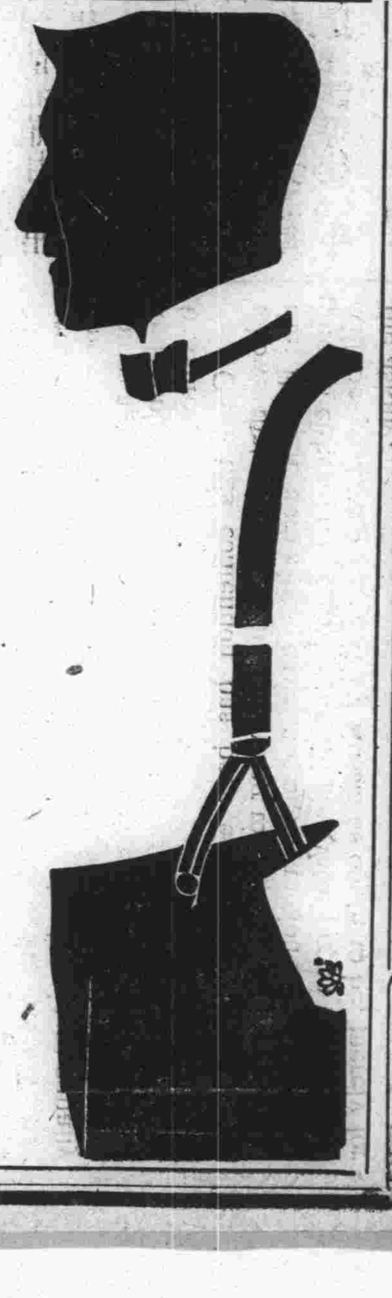
森病院
一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大瀧しげ子）
院主 森孺
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉強仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉強仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町　日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町　日本館支店（電話十九番）
各位樣

東營口郵便局東隣　島田洋服店
新民屯停車場前　同支店

御料理旅館　勉強館　奉天小西關外北長發園隣

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相惟度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合



新着！
舶來ヅボンツリ、新形ネクタイ、流行リボン、
雛人形 東京市松、はこせこ、鏡入、
貰入、蒔繪貰入、手文庫、金庫、支那鞄、柳行李、
元祿模樣、絹首卷、ハンカチーフ、花簪、
鶴香水、ばら白粉、櫛、刷毛、理髮道具類、
春模樣新柄友染、双子縞、銘仙、裏地品々、
營口　加藤洋行（電話八十番）

發賣　料木　標子　木板
塩川商會
清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内　鹽川商會

外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也
●建築

○上等石炭　一噸に付　銀十六圓
○上等日本米　一石に付　銀二十圓
○板材木　○木炭
○亞鉛板　○洋釘
○干塩魚　○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）

大連　東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

發賣　標子　木板　料木
營口青堆子
清水寧木局

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ヶ月前金　銀八十仙
一半ヶ年前金　四弗八十仙
一ヶ年前金　九弗六十仙